今日のイラスト 538　「 イラストでたどる石州街道⑤ 林勇蔵座像」　古谷眞之助

林勇蔵のことを知ったのは 2020 年 9 月のことだったから、実はあまり知ったかぶりはできない。丁度この頃、語り部の会では、萩往還に続いて石州街道をガイド対象にしようと画策していたのだが、山口から篠目までは過去 2 度ほど歩いていたものの小郡から山口のコースは経験者が少なく、研修の対象となったのである。当時の研修部会長に 10 名が引きつられて、小郡→湯田までを自転車で移動しながら街道の歴史を学んだ。その時のレポートに林勇蔵について私は以下のように書いている。「上郷公民館の奥に小郡宰判の大庄屋を務めた林勇蔵碑があります。彼は、諸隊、奇兵隊に大いに協力した人物であるとともに付近の治水、椹野川改修に貢献しただけでなく、大庄屋の吉富家、瀧口家と連合して地租改正にも大きな功績を残しています。また勇蔵が資金提供して掘らせた「椎の木トンネル」があります。ここにも立ち寄りました。長さは 66m で入口と出口の高低差は 32cm、現在も水は流れていました。この水路を確保したことで仁保津地区に 10.4ha の水田が新たに作られたのだそうです。帰路、国道沿いにある林邸も見学しました。ちょっと周囲より高くなっていて、石垣はこの辺りでよく見られる結晶片岩を複雑に組み上げたもので、とても美しいものでした。ともあれ、林勇蔵についてはもっと知りたくなりました。県立図書館で適当な本を探してみるつもりです。県立図書館の蔵書を検索してみると、面白そうな本がありました。「茶乃湯問答」という本で、著者は杉民治と林勇蔵となっています。1903 年発刊の本ですが、二人は一体何を話したのでしょうか。その他には「林 勇蔵日記」が小郡町史編纂室から出ています。最低でもこの 2 冊には目を通しておくことにします」

ということで、その後に読んだ彼に関する書籍をもとにこれを書いた次第。いつも偉そうに書いているが、種を明かせば、ほとんどは書籍からの受け売りである。まぁ、私は幕末史研究者ではないから、それで良い。ともかく、多くの書物からガイドのネタになりそうなものを仕入れ、自分なりに咀嚼してお客様に説明する。大切なことは間違いを言わないことである。ただし、堅い話ばかりでは飽きられてしまうから、時に逸話などを織り交ぜ、不確かなことに関しては、断定するのではなく「・・・と言われています」「・・・という説もあります」と言って上手くぼかす。10 年の経験から得たガイド術とでも言おうか。（2022.8.31 記 ）